



産業観光  
きりゅう紀行②

# 創建の風景のまま 生きた博物館

## 織物参考館“<sup>ゆかり</sup>紫”



織物参考館“紫”は桐生市の織物の歴史を概観できる唯一の施設である。それも建物は数々の織物を生産した現場であるノコギリ屋根工場をそっくり活用しているだけに、より深く織物の生産工程とその歩みが理解できる資料館となっている。

昭和56年5月の開館、森島純男会長が長い期間かけて収集した織物に関する各種資料や器具、機材などを展示している。八丁撚糸機をはじめ桐生式手織機、明治時代のジャガード機、管巻き機、足踏み式手紡機など資料の数は1,200点に及ぶ。

ノコギリ屋根工場を中心に整経場、釜湯（染色場）、撚糸場、寄宿舎など織物業の一連の施設が現存する。ノコギリ屋根工場は三連のものと同四連のものが同一敷地内にあり、桐生市内でも特筆される規模である。創建時の大正13年頃の姿がほぼそのままの状態で残されている好例であり、まさに生きた“博物館”、桐生の産業観光の中核をなすものである。

国登録有形文化財  
2007 経済産業省認定近代化産業遺産  
2007 わがまち風景賞受賞

桐生市東4-2-24  
☎ 0277-45-3111

入館料／大人…700円 大専門学校生／600円  
中学生／500円 小学生／400円  
(駐車場あり・バス7台可)